

## 3-2 考古学

### 研究・教育活動の概要と特色

考古学専攻分野は、戦前の奥羽史料調査部の考古学研究に根ざし、1957年の講座設置以来、東北地方における中心的な考古学研究教育機関としての、長い伝統を発展させています。遺跡・遺物の調査に基づく実証主義の学風をよく継承し、地域の自治体などとも連携し、先端的な調査・分析・報告を続けています。近年10年間においても、旧石器、縄文、弥生、古墳、古代の各時代の遺跡ともに、発掘調査等の研究対象としてきました。遺跡の高精度な調査、遺物の問題志向的な分析を重ねています。また、旧石器時代遺跡の調査方法、先史文化の比較研究、先史集落の研究、地域性の解明、型式学・技術論・機能論の深化、遺物の材質分析、なども重点的テーマとし、研究を進めています。米国、ロシア、中国、韓国などとの研究交流も活発に行なっています。

考古学陳列館・標本室に総数20万点以上の、考古学収蔵資料の蓄積を有し、各時代の基準資料に優れ、これらは教育にも活用しています。収蔵資料のデータベース化を順次、着実に進めています。重要資料は、博物館の特別展示等、全国的に公開されています。大学院修了生、学部卒業生ともに、多数が研究者、学芸員、文化財調査員など、専門職の進路を選択して活躍しています。東北歴史博物館、多賀城跡調査研究所との連携大学院である「文化財科学専攻分野」とは緊密に協力して、教育成果を上げていますので、以下の諸表での該当項目は、両専攻分野を併記してありますことを、申し添えます。

### I 組織

#### 1 教員数 (2008年 4月現在)

考古学

教授：1

准教授：0

講師：0

助教：0

教授：阿子島香

文化財科学

客員教授：2

客員准教授：1

客員教授：加藤道男、後藤秀一

客員准教授：古川一明

## 2 在学生数（2008年 4月現在）

考古学

学部 (2年次以上)	学部 研究生	大学院博士 前期	大学院博士 後期	大学院 研究生
17	0	1	3	0

文化財科学

学部 (2年次以上)	学部 研究生	大学院博士 前期	大学院博士 後期	大学院 研究生
—	—	0	0	0

(文化財科学は、大学院のみで、学部課程はありません)

## 3 修了生・卒業生数（2004～2008年度）

考古学

年度	学部卒業生	大学院博士課程 前期修了者	大学院博士課程 後期修了者 (満期退学者)	博士学位 授与者
04	9	4	0	0
05	8	3	(3)	0
06	8	3	(3)	4
07	4	4	0	0
08	-	0	-	0
計	29	14	(6)	4

文化財科学

年度	学部卒業者	大学院博士課程前期修了者	大学院博士課程後期修了者 (満期退学者)	博士学位授与者
04	-	0	0	0
05	-	2	0	0
06	-	0	0	0
07	-	1	0	0
08	-	0	0	0
計	-	3	0	0

II 過去5年間の組織としての研究・教育活動（2004～2008年度）

1 博士学位授与

1-1 課程博士・論文博士授与件数

年度	課程博士授与件数	論文博士授与件数	計
04	0	0	0
05	0	0	0
06	4	1	5
07	0	1	1
08	0	0	0
計	4	2	6

1-2 博士論文提出者氏名、年度、題目、審査委員

渡辺泰伸、2005 年度、『古代東北窯業生産の成立と変遷』

審査委員：教授・須藤隆(主査)、教授・阿子島香、教授・今泉隆雄

鹿又喜隆、2005 年度、『東北日本後期旧石器時代における石器の製作技術と機能の研究』

審査委員：教授・須藤隆(主査)、教授・阿子島香、教授・柳田俊雄、教授・今泉隆雄

菅野智則、2005 年度、『縄文時代における集落構造の研究』

審査委員：教授・須藤隆(主査)、教授・阿子島香、教授・柳田俊雄、教授・今泉隆雄

小笠原好彦、2005 年度、『日本古代寺院造営氏族の研究』

審査委員：教授・須藤隆(主査)、教授・阿子島香、教授・今泉隆雄

山口博之、2006 年度、『中世奥羽社会の特質と地域性についての考古学的研究』

審査委員：教授・須藤隆(主査)、教授・阿子島香、教授・今泉隆雄、助教授・柳原敏昭

木本元治、2007年度、『東日本における郡家遺跡の出現と律令制地方支配の確立』

審査委員：教授・阿子島香(主査)、教授・今泉隆雄、教授・柳田俊雄

## 2 大学院生等による論文発表

### 2-1 論文数

年度	審査制学術誌 (学会誌等)	非審査制誌 (紀要等)	論文集 (単行本)	その他	計
04	2	0	0	1	3
05	2	0	0	0	2
06	0	1	0	0	1
07	0	0	1	2	3
08	2	0	0	0	2
計	6	1	1	3	11

(考古学と文化財科学を併記、2008年度は現在投稿中の論文を記載した。)

### 2-2 口頭発表数

年度	国際学会	国内学会	研究会	その他	計
04	0	4	1	0	5
05	0	4	1	0	5
06	0	1	1	0	2
07	0	1	0	0	1
08	0	2	0	0	2
計	0	12	3	0	15

(考古学と文化財科学を併記)

### 2-3 上記の大学院生等による論文・口頭発表の中の主要業績

#### (1) 論文

市川健夫 「亀ヶ岡式土器の製作技術と地域性」 『東日本縄文・弥生時代集落の発展と地域性』, 2007

市川健夫 「晩期縄文土器文様における単位と割付に関する一考察ー久原コレクションの分析からー」 『考古学談叢』, 2007

市川健夫 「北上川中流域における晩期中葉土器の研究ー文様の単位と割付を中

- 心に一」 『岩手県における縄文文化の諸相』, 2007
- 市川健夫 「北上川中流域における晩期縄文土器文様割付の研究—晩期中葉を中心に一」 『文化』 72 - 1・2, 2008 (\*印刷中)
- 小原一成 「縄文時代中後期の埋葬痕跡と遺構群の形成—盛岡市上米内遺跡の分析」 『文化』 71 - 3・4, 2008 (\*印刷中)
- 羽石智治・会田容弘・須藤隆・澤田敦・鹿又喜隆 『最上川流域の後期旧石器文化の研究 1』 2004
- 鹿又喜隆 「石刃技法における調整技術の効果」 『旧石器考古学』 65, 2004 (\*助手時)
- 鹿又喜隆 「大石田町立歴史民俗資料館所蔵の角二山遺跡細石刃石器群の研究」 『山形考古』 7-4, 2004 (\*助手時)
- 鹿又喜隆 「定住性の高さと活動の組織化」 『文化』 68 - 1・2, 2004 (\*助手時)
- 鹿又喜隆 「東北地方後期旧石器時代初頭の石器の製作技術と機能の研究」 『宮城考古学』 7, 2005 (\*助手時)
- 鹿又喜隆 「細石刃の装着法と使用法」 『考古学雑誌』 88-4, 2005
- 奈良佳子 「7世紀の須恵器作り」 『考古学の方法』 5, 2004
- 早瀬亮介 「阿武隈川下流域における縄文時代前期初頭の土器型式」 『歴史』 104, 2005
- 早瀬亮介・菅野智則・須藤隆 「東北大学文学研究科考古学陳列館所蔵大木囲貝塚出土基準資料—山内清男編年基準資料—」 『Bulletin of the Tohoku University Museum』 5, 2006
- (鹿又は、博士後期課程から本学助手に就職し、のち後期課程に復学したので、記載している(\*助手時)。ただし表中の数には含めていない。また、2008年度は現在印刷中の論文を記載した(\*印刷中)。これらの論文は表中に含めている。)

## (2) 口頭発表

- 市川健夫 晩期縄文土器における施文技術の研究—晩期中葉を中心に一 東北大学文学部考古学研究会第 61 回例会 2006.5.13
- 市川健夫 晩期縄文土器文様における単位と割付の一樣相—青森県東津軽郡外ヶ浜町今津遺跡出土資料を中心に一 東北史学会 2006 年度大会 2006.10.8
- 市川健夫 北上川中流域における晩期中葉土器の研究—文様の単位と割付を中心

- にー 2007年岩手考古学会第38回研究大会 2007.7.29
- 市川健夫 縄文時代晩期大洞 C2 式土器から見る地域間交流の射程ー北上川中流域  
と雄物川上流域の比較分析を通じてー 東北史学会 2008 年度大会 2008.10.5
- 小野章太郎 岩手県上萩森遺跡における剥片剥離技術の特色 東北史学会 2004  
年度大会 2004.10.3
- 小原一成 東北地方における縄文時代墓制研究の一視点 第 56 回東北大学考古  
学研究会例会 2004.10.16
- 小原一成 縄文時代における土器埋設遺構研究の視座 東北史学会 2008 年度大  
会 2008.10.5
- 吾妻俊典・阿部恵・櫻井友梓 木戸窯跡群第一次発掘調査の概要 東北史学会 2004  
年度大会 2004.10.3
- 吾妻俊典・櫻井友梓 東北大学所蔵木戸窯跡群資料の検討 東北史学会 2005 年度  
大会 2005.10.2
- 高橋大輔 旧石器時代終末期の尖頭器製作技術 東北史学会 2005 年度大会  
2005.10.2
- 羽石智治 後期旧石器時代における遺跡形成過程の研究ー新庄市上ミ野 A 遺跡出  
土資料の分析ー 2005 年度宮城県考古学会研究発表会 2005.5.15
- 早瀬亮介 角田市土浮貝塚出土上川名Ⅱ式土器の型式学的検討 2004 年度宮城県  
考古学会研究発表会 2004.5.15
- 山口博之 東日本の墓と都市 考古学の語る「中世墓地物語」シンポジウム  
2004.11.13
- 山口博之 中世東北の陶器生産と流通 環日本海交流史研究会 2005.10.28
- 山口博之 中世陶器窯の位相 東北学院大学中世史研究会 2005.6.25

### 3 大学院生・学部生等の受賞状況

なし

### 4 日本学術振興会研究員採択状況

2008 年度 PD 受入 1 名

## 5 留学・留学生受け入れ

### 5-1 大学院生・学部学生等の留学数

なし

### 5-2 留学生の受け入れ状況（学部・大学院）

年度	学部	大学院	計
04	0	0	0
05	0	0	0
06	0	0	0
07	0	0	0
08	1	0	1
計	1	0	1

## 6 社会人大学院生の受け入れ数

年度	前期課程	後期課程	計
04	0	1	1
05	0	1	1
06	0	1	1
07	0	0	0
08	0	0	0
計	0	3	3

## 7 専攻分野出身の研究者・高度職業人

### 7-1 専攻分野出身の研究者

羽石智治、つがる市教育委員会、2004年度博士後期課程単位取得退学

小野章太郎、宮城県教育庁文化財保護課、2004年度博士後期課程単位取得退学

菅野智則、東北大学大学院文学研究科、2004年度博士後期課程単位取得退学

櫻井友梓、岩手県教育委員会生涯学習文化課、2005年度博士前期課程修了

早瀬亮介、福井県埋蔵文化財センター、2005年度博士後期課程単位取得退学

鹿又喜隆、(株)加速器分析研究所、2005年度博士後期課程単位取得退学

森田賢司、仙台市教育委員会、2006年度博士前期課程修了

佐藤秀一、角田市教育委員会生涯学習課、2006年度文学部卒業

## 7-2 専攻分野出身の高度職業人

2005年度 高校教員 1名

2006年度 新聞社社員 1名

## 8 客員研究員の受け入れ状況

中央研究院歴史語言研究所（台湾）副研究員 陳玉美

2005年9月4日～10月9日

ネブラスカ・リンカン大学（アメリカ）教授 Peter Bleed

2006年6月15日～8月1日

## 9 外国人研究者の受け入れ状況

中文大学中国考古藝術研究中心（香港）主任 鄧聰 東北大学総合学術博物館客員教授 2004年4月28日～8月1日

サハリン国立総合大学（ロシア）人類科学研究所長 アレキサンダー・ワシレフスキー 東北大学総合学術博物館客員教授、2004年11月29日～2005年3月15日

中国社会科学院考古研究所（中国）副研究員、王小慶 東北大学総合学術博物館客員教授 2007年5月21日～9月19日

中国科学院古脊椎動物与古人類研究所（中国）副研究員・北京市王府井古人類文化遺址博物館（中国）副館長、李超榮 東北大学総合学術博物館客員教授、2008年5月21日～9月8日

## 10 刊行物（専攻分野刊行のもの）

『考古学の方法』第5号 2004年

『最上川流域の後期旧石器文化の研究1』 2004年

『東日本縄文・弥生時代集落の発展と地域性』 2007年

『考古学談叢』 2007年

『考古・民族・歴史学論叢』 2008年

## 11 学会・研究会・講演会・シンポジウム等の開催・事務局等引き受け状況

2004年度

東北史学会考古学部会



宮城県考古学会総会・研究発表会

2005 年度

東北史学会考古学部会

宮城県考古学会総会・研究発表会

2006 年度

東北史学会考古学部会

宮城県考古学会総会・研究発表会

2007 年度

東北史学会考古学部会

宮城県考古学会総会・研究発表会

博古研究会（仙台大会事務局）

2008 年度

東北史学会考古学部会

宮城県考古学会総会・研究発表会

石器使用痕研究会総会

## 1 2 専攻分野主催の研究会等活動状況

2004 年度

東北大学文学部考古学研究会第 54 回例会～第 58 回例会

(4 月 24 日、7 月 3 日、10 月 16 日、2005 年 1 月 9 日、3 月 5 日)

※第 58 回例会は、東北大学総合学術博物館と共催

2005 年度

東北大学文学部考古学研究会第 59 回例会～第 60 回例会(6 月 25 日、

12 月 3 日)

2006 年度

東北大学文学部考古学研究会第 61 回例会(5 月 13 日)

須藤隆先生最終講義「縄文から弥生へー東北考古学の回顧そして展望ー」

(2007 年 3 月 10 日)

2007 年度

東北大学考古学研究室 ・東北アジア研究センター合同研究懇談会「ロシア

科学アカデミー・シベリア支部と発掘調査の風景」エレナ・ボイテシュ

カ氏（同支部考古学民族学研究所）(2008 年 1 月 29 日) ※東北アジア研

究センターと共催

2008 年度

東北大学総合学術博物館・文学研究科考古学研究室合同研究会李超榮氏  
(中国科学院古脊椎動物与古人類研究所) (2008年6月18日・25日)

※東北大学総合学術博物館と共催

李超榮氏 公開講演会「中国の前・中期旧石器時代の新情報」(2008年8月23日) ※宮城県考古学会旧石器研究会と共催

### 13 組織としての研究・教育活動に関する過去5年間の自己点検と評価

考古学専攻分野では、組織的な調査、分析研究、報告、教育などの各面は、不即不離で総合的なものという立場で、研究教育活動を進めてきました。考古学専攻分野の教員数は、教授1名です。東北大学総合学術博物館の教授1名が協力教員となっています。

在籍学生数は、年により増減がありますが、収容定員数10名に対し、各年4～9名の卒業生を出しています。修士課程は、収容定員数2名に対し、各年1～4名の修了生を出しています。課程博士は、2005年度の提出者が3名(1名は社会人大学院生、授与は2006年度上半期)、2006年度が1名(社会人大学院生、授与は2006年度末)となっています。課程博士論文のテーマは、後期旧石器の機能、縄文時代集落、古代東北窯業生産、中世東北考古学と、各時代があります。論文博士は、2007年度に1名です。テーマは、古代東北の郡家遺跡です。考古学専攻分野は、宮城県立東北歴史博物館、および多賀城跡調査研究所との協定による連携大学院である「文化財科学専攻分野」(客員教授2、客員准教授1)と緊密に協力して教育成果をあげております。収容定員は、各年1名ですが、2004～2008年度で、3名の修士を出しています。卒業生、修了生の進路は、民間企業をはじめ多岐にわたっていますが、考古学、文化財の専門分野の研究者・高度職業人も多く、5年間で8名になります。つがる市、岩手県、宮城県、福井県、加速器分析研究所などがあります。

組織としての発掘調査は、5年間のうちに、旧石器時代(群馬県桐生市鶴ヶ谷東遺跡・山形県真室川町丸森I遺跡)、縄文時代(宮城県名取市泉遺跡への協力)、弥生時代(宮城県白石市和尚堂遺跡への協力)、古墳時代(宮城県丸森町台町古墳群測量調査)、古代(宮城県白石市兀山窯跡測量と試掘)と各時代の調査を実施しています。また、多賀城跡調査研究所による発掘調査には、毎年、文化財科学研究実習として、院生と希望する学部生が参加しています。調査資料の整理と報告は、継続的に進めて

おり、新潟県川口町荒屋遺跡、山形県新庄市上ミ野A遺跡、大分県日出町早水台遺跡（総合学術博物館との協力）の報告書を刊行しています。また大学院生の研究発表は活発であり、5年間で論文11件、口頭発表15件となっています。地域での学会活動では、宮城県考古学会（1998年の設立から2004年まで事務局）、東北史学会、東北大学考古学研究会で、運営に参画し、研究発表を行っています。

収蔵資料の整理とデータベース化は、文学研究科歴史科学専攻の「歴史資源プロジェクト」と連動しつつ継続的に進めています。考古学陳列館の主要資料について、約3500件の画像データベース化を行い、考古学標本室収蔵の約7000箱について、資料内容のリスト化を進めました。また、伊東信雄資料のうちサハリン関係資料、山内清男の大木式土器標識資料について、詳細な内容を調査、公開しました。文学研究科所蔵の考古学、民族学資料は、各地博物館の特別展等への貸し出しも増加し、2006年度は、九州国立博物館、徳島県立博物館など、33件になっています。2007年度は29件です。2006年度では考古学陳列館に、研究者80名の見学調査を受け入れました。

国際交流では、米国、台湾からの客員研究者、また総合学術博物館へのロシア、中国からの客員教授を受け入れ、資料の共同研究を行っています。

### Ⅲ 教員の研究活動（2004年度～2008年度）

#### 1 教員による論文発表等

##### 1-1 論文

須藤隆「歴史資源アーカイブ」による考古学陳列館・標本室収蔵の考古学資料データベース化」,『東北大学歴史資源アーカイブの構築と社会的メディア化』, pp.119-122, 2005.3

早瀬亮介・菅野智則・須藤隆「東北大学文学研究科考古学陳列館所蔵大木囲貝塚出土基準資料—山内清男編年基準資料—」,『東北大学総合学術博物館紀要』No. 5, pp.1-40, 2006.3

阿子島香「総論：技術組織論と技術構造論（特集、道具の組織化）」,『考古学ジャーナル』560号, pp.3-5, 2007

Akoshima, Kaoru, 「Recent developments of micro use-wear studies on stone tools in Japan」,『Ancient Hong Kong and East Asia: The fourth international conference on ancient culture of South China and neighboring regions』, pp.25-31, 2007.11

Akoshima, Kaoru. 「Emergence of high-power microwear analysis in Japan, 1976 to 1983: Prof. Serizawa's legacy and beyond」,『芹沢長介先生追悼 考古・民

- 族・歴史学論叢』, pp.189-207, 2008.3
- 阿子島香「高倍率法30年の展望から」,『石器使用痕研究会会報』8, pp.1-4, 2008.3
- 阿子島香「ジオアーケオロジとセトルメントアーケオロジの接点—欧米での研究から—」, 比田井民子他編『考古学リーダー14 後期旧石器時代の成立と古環境復元』, 六一書房, pp.109-123, 2008
- Akoshima, Kaoru. 「A tradition of local history at a small castle town in northeastern Japan, 1968 to 1977: Mr. Nakahashi's legacy and beyond」, 『蔵王東麓の郷土誌-中橋彰吾先生追悼論文集』, pp.53-78, 2008
- Vasilevski Alexander, Takashi Suto, Kaoru Akoshima, Tomoharu Haneishi and Toshio Yanagida, The list of the Professor of Tohoku University Ito Nobuo's collections, made up in Karafuto-Sakhalin during his personal scientific trip around the middle and southern parts of the island in 1933-1934, Bulletin of the Tohoku University Museum, No.5, pp.57-82, 2006
- 菅野智則「縄文時代中期集落の構造」, 『文化』69-1・2, 2005
- 菅野智則「複式炉を有する縄文中期後葉集落の分布」, 『日本考古学協会2005年度福島大会研究発表要旨』, 2005
- 菅野智則「複式炉を有する縄文集落の分布」, 『日本考古学協会2005年度福島大会シンポジウム資料集』, 2005
- 菅野智則「集落研究におけるデータベース」, 『博古研究』30, 2005
- 菅野智則「北上川流域における中期後半集落の研究」, 『宮城考古学』8, 2006
- 菅野智則「北上川流域における縄文集落の構造—複式炉と構成単位—」, 『日中交流の考古学』, 2007
- 菅野智則「北上川・馬淵川流域における晩期縄文集落の特徴」, 『東日本縄文・弥生時代集落の発展と地域性』, 2007
- 菅野智則「東北地方縄文時代中期後半土器の研究—器形変化に関する属性分析—」, 『考古学談叢』, 2007
- 菅野智則「北上川流域における縄文時代中期後半集落のあり方—分析の課題—」, 『岩手県における縄文文化の諸相』, 2007
- 菅野智則「北上川流域における縄文時代中期後半集落の地域性」, 『博古研究』34, 2007
- 菅野智則「北上川流域の縄文社会—立地と分布からみた集落の変化—」, 『東北縄文社会の歴史動態的研究—河川流域における縄文集落の考古学的研究

一』,2008.1

## 1-2 著書・編著

須藤隆(共編) 『最上川流域の後期旧石器文化の研究1-上ミ野A遺跡  
第1・2次調査』, 2005.3

須藤隆(共著) 『青森県史 資料編 考古3 弥生-古代』, 2005.3

須藤隆(編著) 『岩手県川村(砂沢)遺跡出土資料』奈良国立文化財研究所史料  
第74冊, 2006.3

須藤隆(編著) 『東日本縄文・弥生時代集落の発展と地域性』, 2007.3

阿子島香(共著) 『仙台市史通史編 1原始 旧石器時代改訂版』, 仙台市発行,  
2005

阿子島香 「先史の東北-石器と人々」, 花登正宏編『東北-その歴史と文化  
を探る』, 東北大学出版会, pp.1-38, 2006

阿子島香(編著) 『ことばの世界とその魅力』, 東北大学出版会, 2008.4

阿子島香(共著) 『考古学-その方法と現在-』(第5章「層位学と年代」, 第9  
章「使用痕分析と実験考古学」, 第14章「遺跡内での遺物分布」, 「プロ  
セス考古学とアメリカ考古学」), 放送大学印刷教材, 国立印刷局, (印刷  
中)

## 1-3 翻訳、書評、解説、辞典項目等

須藤隆 「遺跡発掘の方法」中村捷他編『人文科学ハンドブック』, 2005.3

須藤隆 『日本古代史大辞典』, 上田正昭監修, 項目執筆, 大和書房, 2006

阿子島香 『現代考古学事典』, 安斎正人編, 項目執筆, 同成社, 2004

阿子島香 『新日本考古学小辞典』, 芹沢長介他編, 項目執筆, ニューサイエンス  
社, 2005

阿子島香 「芹沢先生の教育と使用痕研究(芹沢長介追悼特集)」, 『考古学ジャ  
ーナル』546号, pp.24-25, 2006

阿子島香 『「技術的組織論」の観点による後期旧石器の機能に関する比較文化  
的研究』科学研究費補助金研究成果報告書, 2007

阿子島香 「須藤隆教授の業績と学風」, 『文化』, 第70巻3・4号, pp.1-5, 2007.3

阿子島香 「惜別・中橋彰吾先生を偲んで」, 『宮城考古学』9, p.197, 2007

Toshio Yanagida, and Kaoru Akoshima, Preface: Research of the Early Palaeolithic

- Industry discovered at the Sozudai site, Oita Prefecture, Kyushu Japan. Bulletin of the Tohoku University Museum, No.7, 2007
- 阿子島香 「石器使用痕の解釈基準をめぐって」『石器使用痕研究会会報』8, pp.9-11, 2008.1
- 阿子島香 「貝塚・石器・石のゴミー菅野氏へのコメントー」, 『東北文化研究室紀要』49, pp.46-47, 2008.3
- 阿子島香 (協力) 「クロマニヨン人が残した立体芸術」『NEWTON』, vol.28, no.6, pp.84-91, 2008.6
- 阿子島香 『文化人類学事典』(項目執筆「考古学」), 日本文化人類学会編, 丸善出版, (印刷中)
- 菅野智則 『日本古代史大辞典』, 上田正昭監修, 項目執筆, 大和書房, 2006
- 菅野智則 「縄文人の「ゴミ」と集落」, 『東北文化研究室紀要』49, pp.44-45, 2008.3
- 菅野智則・山本直人・宮尾亨・岩崎厚志・松井章 「アメリカ オレゴン州 サンケン・ビレッジ遺跡-コロンビア川河畔のドングリ貯蔵穴の調査」, 『考古学研究』54-4, pp.120-123, 2008.3

#### 1-4 口頭発表

- 須藤隆 「東北日本農耕社会の成立と展開」, 東北文化公開講演, 2004.6
- 須藤隆 「縄文から弥生へー東北考古学の回顧そして展望ー」, 須藤隆先生最終講義 (於東北大学), 2007.3.10
- 阿子島香・他 (コメント) 「東北地区における人類学教育の歴史と現状」東北人類学談話会第100回記念シンポジウム, 『東北人類学論壇』第3号, pp.18-20, 2004.
- 芹沢長介、柳田俊雄、阿子島香、小野章太郎 「群馬県桐生市鶴ヶ谷東遺跡の前期旧石器」, 『日本考古学協会第72回総会研究発表要旨』, pp.25-28. 於東京学芸大学, 2006.5.28
- 阿子島香 「ジオアーケオロジーとセトルメントアーケオロジーの接点ー欧米での研究からー」『多摩川流域の考古学的遺跡の成立と古環境シンポジウム・土と遺跡ー時間と空間 予稿集』, pp.34-35, 於調布市, 2007.1.27
- 阿子島香 「歴史資源としての考古資料ー石器を中心にー」『公開シンポジウム・歴史資源としての史料分析の現在 第1回』, 東北大学大学院文学研究

科, 2007.3.13

阿子島香 「石器使用痕の解釈基準をめぐって」『石器使用痕研究会 第12回研究会』, 於東京都立大学, 2007.3.24

Akoshima, Kaoru. Recent Research on the Early Palaeolithic of Japan. Paper presented at 72nd annual meeting of the Society for American Archaeology. Austin, Texas, Abstract for papers, pp.34-35. April 29, 2007

Akoshima, Kaoru. Academic exchange in the field of archaeology. International symposium of the 15th anniversary of the academic exchange agreement between Tohoku University and Siberian Branch of Russian Academy of Sciences. Section meeting. Sendai International Center, August 24, 2007

阿子島香 「ヨーロッパ南西部における更新世末期の環境変動と人類活動 — マドレーヌ文化の事例を中心に —」, 『第2回 年代測定と日本文化研究 シンポジウム予稿集』, pp.70-73, 加速器分析研究所, 於福島県文化センター白河館まほろん, 2007.9.9

Akoshima, Kaoru. Recent Developments of Micro Use-wear Studies on Stone Tools in Japan. 古代香港与東亜 於香港中文大學中國文化研究所中國考古藝術研究中心考古博物館創館, November 21, 2007

阿子島香 「貝塚・石器・石のゴミ—菅野氏へのコメント—」, 『2007年度 東北文化研究室公開シンポジウム』, 2007.12

Akoshima, Kaoru. Lithic microwear analysis in Japanese prehistoric studies : Functional interpretation and technological organization. Paper presented at 73rd annual meeting of the Society for American Archaeology (Vancouver), March 30, 2008

Akoshima, Kaoru. A perspective of microwear analysis of ground stone tools.

Paper presented at a symposium, 「古代玉器研究方法探索」 研討會, 於香港中文大學文物館, April 10, 2008

菅野智則 「複式炉を有する縄文集落の分布」, 日本考古学協会 2005年度福島大会シンポジウム 2005

菅野智則 「北上川流域における中期後半集落の研究—炉構造による住居跡形態の差異—」, 2006年度宮城県考古学会総会・研究発表会, 2006

菅野智則 「北上川流域における縄文時代中期後半集落のあり方」, 2007年岩手考古学会第38回研究大会, 2007

菅野智則 「北上川流域における縄文時代中期後半集落の地域性—炉跡からみた  
地域的様相—」,東北史学会, 2007

菅野智則 「縄文人の「ゴミ」と集落」,『2007年度 東北文化研究室公開シンポ  
ジウム』, 2007.12

菅野智則 「北上川流域の縄文社会—立地と分布からみた集落の変化—」,『東北  
縄文社会の歴史動態的研究—河川流域における縄文集落の考古学的研究  
—』,2008.1

## 2 教員の受賞歴（2004年度～2008年度）

なし

## IV 教員による競争的資金獲得（2004年度～2008年度）

### (1) 科学研究費補助金

2004年度

阿子島香 教授

2003～2006年度 基盤研究(C)(2) 「技術的組織論」の観点による後期  
旧石器の機能に関する比較文化的研究(研究代表者) 3,400,000円

※2003年度より継続のため、記載した。

2005年度

須藤隆 教授

2005～2006年度 基盤研究(C)(2) 東日本縄文・弥生時代集落の比較文  
化研究,(研究代表者), 3,200,000円

菅野智則 助教

2005～2006年度 基盤研究(C)(2) 東日本縄文・弥生時代集落の発展と地域  
性(分担), 2,200,000円

2005・2007年度 斎藤報恩会研究助成金 陸奥国における瓦生産開始期の  
研究(分担), 250,000円

2007年度

菅野智則 助教

2007年度 若手研究B 縄文時代集落構造の研究-考古学資料の定量化と可視化-  
(研究代表者), 2,500,000円



## (2) その他

須藤隆 教授

2004年 総長裁量経費『東北大学歴史資源アーカイブの構築と社会的メディア化』による「東北大学考古学資料データベース」(分担)

阿子島香 教授

2004年 総長裁量経費『東北大学歴史資源アーカイブの構築と社会的メディア化』による「東北大学考古学資料データベース」(分担)

2008年 文部科学省・大学院教育改革支援プログラム(大学院GP)『歴史資源アーカイブ国際高度学芸員養成計画』東北大学大学院文学研究科・歴史科学専攻(取組実施担当者代表)

## V 教員による社会貢献(2004年度～2008年度)

須藤隆 教授

文化財保護審議会第三専門調査委員会委員  
宮城県文化財保護審議会委員(～2007年度)  
仙台市文化財保護審議会委員  
宮城県多賀城跡調査研究所発掘調査委員会委員長  
仙台市史編纂委員会専門委員  
仙台市郡山遺跡発掘調査指導委員会委員  
大船渡市史跡大洞貝塚発掘調査指導委員会委員  
国史跡慧日寺整備指導委員会委員  
国史跡山王圀遺跡整備計画策定委員会  
斎藤報恩会自然史博物館評議員

阿子島香 教授

仙台市歴史文化事業団理事(2001～2004)  
仙台市市民文化事業団理事(2004～現在)  
仙台市史編纂調査分析委員(2003～2005)  
宮城県文化財保護審議会委員(2008～)  
宮城県特別名勝松島保存管理計画策定会議委員(2008～)  
みやぎ県民大学「東北—その歴史と文化を探る」講師(2005)

有備館講座「東北の豊かさ」講師（2005）

白石市民大学（宮城県白石市教育委員会）講師(2006)

## **VI 教員による学会役員等の引き受け状況（2004年度～2008年度）**

須藤隆 教授

日本考古学会幹事（2004～）

考古学研究会全国委員（2004～）

東北史学会会長（2004）

東北史学会評議員（2005～）

宮城県考古学会会長（2004）

東北大学文学部考古学研究会代表（2004～2006）

阿子島香 教授

東北史学会評議員（2004～）

宮城県考古学会総務代表幹事（2004）

東北大学文学部考古学研究会代表（2007～）

菅野智則 助教

宮城県考古学会会誌幹事会委員(2004～)

博古研究会委員（2004～）

## **VII 教員の教育活動（2008年度）**

### **（1）学内授業担当**

#### **1 大学院授業担当**

阿子島香 教授

考古学研究実習Ⅰ・Ⅱ（1・2学期）「考古学の調査と資料分析（1）  
（2）」

資料基礎論特論（2学期）「先史考古学資料論」

考古学研究演習Ⅰ（1学期）「考古学研究史」

考古学研究演習Ⅱ（2学期）「考古学の方法と理論」

#### **2 学部授業担当**

阿子島香 教授

考古学概論（3セメスター）「先史考古学概説」

考古学基礎講読 (4 Semester) 「考古学資料読解」  
考古学基礎実習 (3 Semester) 「考古学資料の観察と記録」  
考古学講読 (5 Semester) 「先史文化研究」  
考古学演習 (5 Semester) 「考古学研究史」  
考古学演習 (6 Semester) 「考古学の方法と理論」  
考古学実習 (5・6 Semester) 「考古学資料分析法 (1)・(2)」  
資料基礎論各論 (6 Semester) 「先史考古学資料論」

### 3 共通科目・全学科目授業担当

なし

#### (2) 他大学への出講 (2004～2008年度)

須藤隆 教授

千葉大学非常勤講師 (2004 年度)

阿子島香 教授

放送大学非常勤講師 (2005 年度)

放送大学分担協力講師「考古学」(2007～2008 年度)